

令和5年度第24回都市経営会議 令和6年（2024年）1月24日（水）開催

1 令和6年度当初予算について

【提 案】 企画経営部

【結 果】 承認

【質疑等】

・ 公債費は今後、徐々に増加すると考えている。予算上は減っているが実質は増えるのではないかと。どの程度増加していくのか。

⇒ 借換債があり、利率も1.3%と高く見込んでいるため4億円程度増える。令和4年度に積み立てた市債管理基金を2億充当するため数字上は2億増える形となる。

・ 当初予算で財政調整基金を19.8億取り崩し、基金残高がかなりの勢いで減っているが、令和5年度の決算見込みではどうなるのか。取り崩し額が減ると思っているのか。

⇒ 不用額がどの程度出てくるかによるが、全くのゼロという形は難しい。

・ 令和5年度の当初予算においても財政調整基金を19.8億取り崩す大変厳しい予算編成であったが、令和6年度も同様に19.8億の取り崩しとなっている。さらに今回の予算編成を見ると、財政調整基金を取り崩し、なおかつ他の目的基金を取り崩しての予算編成となっており、非常に厳しい状況である。この状況が今後大きく改善する要素が今のところ見えにくいいため、令和6年度予算を組んだものの、各部局で再度、支出の見直しを図っていく必要がある。

・ 令和6年度は過去に積み立てた貯金を取り崩す形で予算を編成した。しかし、令和7、8年度に向けて、現状のままでは貯金が減る一方であり、待ったなしの厳しい状況を迎えている。今までと同じような予算の組み方ではいけない。積極的に上乗せ横出し経費を見直すなど、今後について考えるきっかけにしてほしい。

また、システム標準化に伴い今後、大きな経費がかかる。過去、各課がシステムをそれぞれ構築してきたため、それらを統合する手間と経費がかかっている印象を受ける。統合が完了すれば業務効率も上がり、ランニングコストの減も期待できるため、この苦しい局面に何とか市のシステムを使いやすい形に統合していきたい。各課ばらばらに作ったシステムをどう統合していくのか、原課の部長レベルでまずは検討し、部下に指示してほしい。

・ 財政見通しはいつ作成するのか。

⇒ 3月の予算編成のタイミング、なおかつ予算委員会までに作成する。

・ 財政見通しが出れば議論がより明確化すると思う。具体的な案までは決まらないかもしれないが、来年度どのように予算を組むのか改めて検討し、準備を進めておかなければならない。

さらに今年度は債務負担が多い。つまり、翌年度以降に支出が約束されている経費だけでも大きな負担となる。それを踏まえてどう対応していくのか検討はできている

のか。

⇒ 本日午後から、行財政経営方針に掲げた3か年の評価期間の総括と今後について議論したいと考えている。何ができるか、いきなりは決まらないかもしれないが、基金を取り崩していかなければ予算編成ができない厳しい状況にあることを認識した上で各部から意見を出してほしい。

システムの関係で言えば、令和7年度までに標準化をする必要があり、約20億の経費がかかる。補助対象経費に当たるもの、当たらないもので色分けすると、補助対象経費に当たるものは約14億であるが、国からは現状、3～4億程度しか内示をいただけておらず、未だ全額を補償することは示されていない。標準化においては、カスタマイズが一切ない。それを原課にも理解いただいた上で、今まで業務効率などのために様々付随していた機能が今回はなくなると思っている。つまり、自部署のやり方を変えていかないといけない。本日午後の会議では、皆でこの3か年の振り返りを行い、今後に向けた活発な議論をお願いする。

## 2 令和6年度宝塚市水道事業会計予算について

【提 案】 上下水道局

【結 果】 承認

【質疑等】

・ 令和6年度予算における給水収益が、前年度に比べて2.8億程度上がっているのは料金改定の影響か。

⇒ そうである。

・ 令和6年度から平均改定率19%の値上げを行う（ただし、令和6年4月1日からの1年間は平均改定率9.5%の経過措置期間）こととしているが、令和6年度は料金改定をしたところで赤字になるのか。

⇒ 令和6年度は9.5%で給水収益を見込んでいるが、19%で見込んだ予算を編成した場合、収支差引は1～2千万円のプラスになる試算をしている。そのため、令和7年度以降は黒字化する見込みである。

・ 資本的収支の部分で、下水道への投資（貸付金）は何年ごろまで続くのか。

⇒ 現状の見込みでは令和6年度までで、令和7年度からは下水道事業会計から企業債償還金が入ってくると見込んでいる。

## 3 令和6年度宝塚市下水道事業会計予算について

【提 案】 上下水道局

【結 果】 承認

【質疑等】 なし

#### 4 令和6年度宝塚市病院事業会計予算について

【提 案】 市立病院

【結 果】 承認

【質疑等】

- ・ 収益的収支差の3.7億が現実に赤字になった場合はどうなるのか。  
⇒ 概算にはなるが、未処分利益剰余金が概ね10億となっており、そこから減額される。
- ・ 今年度の決算見込みにおける赤字額はどの程度か。  
⇒ 4億円程度であり、未処分利益剰余金から減額していくこととなる。ただし、損益勘定留保資金のところで財源不足の補填が禁止項目になっているため、その分は一般会計から補填をお願いしたいと考えている。
- ・ 赤字解消に向けて努力しているところであるが、入院単価を上げても入院患者数が増えなければ効果が上がらない。病棟の工事はいつまでかかるのか。  
⇒ 改修工事の影響で、令和7年度の上半期までは約320床で稼働せざるを得ない。令和7年度の下半期は350床で稼働したい考えで、赤字は解消すると思われる。
- ・ 稼働病床数が減っているのは事実であるが、それ以外にはどのような点で赤字解消に向けた経営努力をしているのか。  
⇒ まず給与費については時間外の削減に取り組んでいる。そのほか、4月から医師働き方改革が始まり、時間外勤務が増加する可能性が高いため、原資確保のために医師のみに支給されている手当の見直しを検討している。例えば、外部の病院から外来等でお越しいただく応援医師の手当について、年間3億程度かかっているため1割カットの目標を掲げている。
- ・ できること、できないことがあるかと思う。意気込みだけではなく、進捗管理を行い、取組状況や成果を報告してほしい。  
⇒ 病院の経営強化プランで数値目標を掲げている。結果、できなかったで終わらないよう進捗管理に努める。
- ・ 市立病院は市民の安全安心や地域医療の中心として、なくてはならない施設である。とはいえ、赤字のままでは良いわけではないため、経営強化に向けた努力をよろしく願います。